

2017年7月9日(日)付『新潟日報』書評欄に加藤孝男 太田昌孝著『詩人 西脇順三郎 その生涯と作品』が紹介されました。

加藤孝男、太田昌孝著

詩人 西脇順三郎 その生涯と作品

このたび刊行された本書は、日本の現代詩のパイオニア(開拓者)の筆頭にあげられる詩人・西脇順三郎(1894~1982年)を紹介、解説する一冊である。

1920年代中頃よりスタートした日本の現代詩をリードしていった詩人だけに、順三郎の詩は難解であり、現時点でノーベル文学賞候補者に8回も推薦されていたことが分かっているのだが、正式な受賞を逃した一因には詩の難解さがある。加藤孝男、太田昌孝両氏が共著の本書は、こうした順三郎の「詩の基層にある絶対的な現実を体験する」(あとがき)ところから記された貴重な著作である。

### にいがたの一冊

る。

確かに、小千谷市が生んだこの偉大な詩人については、詩や詩論が紹介されることに比べれば、「詩の基層」、つまり、順三郎の生活体験から詩を読んでみるという試みは少なかつた。

本書の最大の特色は、長期にわたって小千谷に深く関わり、とくに小千谷市民でもあった1年間の経験を生かしながら、太田氏が西脇本家一門を含めた、順三



### 郷愁の表現 足跡たどり追究

郎の幼少年期を掘り起こし 新鮮である。ている部分、また、戦後から晩年にかけての郷里・小千谷に対する味わい深い郷愁の表現を紹介している部分などである。ことに順三郎の従兄が記した「西脇義一郎日記」への言及などは特筆すべきであろう。基本的な骨格として、太田氏の民俗学を重視した小千谷からの視点と、加藤氏の

加藤氏の順三郎の足跡やその詩への探求心も見事な成果を展開している。とりわけ、往路を含めた順三郎のイギリス留学時代の追跡は、新事実を調査しての圧巻で、順三郎の旅路やロンドンでの生活の実感が伝わってくる手応えがある。エジプトでのピラミッド見学の検証、ロンドンで下船した埠頭の確定、マージョリ・ビッドルとの出会いから恋愛、結婚、彼女を伴っての帰国などの記述は、知られざる事実の満載でとても

1944円

クロスカルチャー出版

福島大名教授

澤 正宏

読 書